

ジュニア部門 (高校生の部)

応募歌数

五、四二三首

最優秀賞

「背高いね!」「何センチあるの?」聞き飽きた容れ物だけの僕じゃないから
青藤 壺

(長岡工業高等専門学校)

選者賞 (大下一真選)

たくさんのおいしい食はプラスチック海鳥の胃は満たされて死す
坂爪結子

(昭和女子大学附属昭和高等学校)

選者賞 (水上比呂美選)

花散らふ枕詞を忘れない君の名前に秋があるから

引木 花

(東京学館新潟高等学校)

魚沼市長賞

この夏がもう最後だと汗臭いスパイク・ミット磨く玄関

坂口幸太朗

(長岡工業高等専門学校)

新潟日報社賞

マウンドの照明の影ピッチャーの四つの分身マウンドにある

森田蒼生

(東京学館新潟高等学校)

宮柁二記念館長賞・・・九首

そうだねと相手が気に入る仮面つけ私は皆の着せ替え人形

増田沙織

(神奈川県立鎌倉高等学校)

赤よりも大きい黒を追いかけて袂も気にせずすくう夏祭り

鈴木水萌紗

(神奈川県立鎌倉高等学校)

フェルメール牛乳注ぐ女のよう朝の牛乳注ぐ母さん

吉田あゆみ

(東京学館新潟高等学校)

「大丈夫」後輩の失敗励ましてそう言いながら自分も励ます

風間 蘭

(新潟県立小出高等学校)

暗転の中で息吐きさあいくぞ四つ打ち聞いて踏み出すステップ

角家乃愛

(新潟県立小出高等学校)

終点の無人駅にてただいまと草の匂いに帰省を告げる

草川真柚

(神奈川県立鎌倉高等学校)

赤とんぼびたりと止まる俺の指お前も俺の良さが分かるか

五十嵐剣聖

(新潟県立小出高等学校)

ポケットの小銭鳴らしてどこまでも行ける気がした十六の夏

菊池雄太

(神奈川県立七里が浜高等学校)

故障して羽回らない扇風機なかなか解けない証明問題

柴山紀花

(茨城県立下館第一高等学校)

秀逸・・・二十三首

思うよりズッシリ重い弓道着ぬいだり着たり夏合宿前

仲谷夏菜子

(神奈川県立鎌倉高等学校)

夏の風甲子園の砂吹きあがる球児たちの汗茶色にひかる

関口維吹

(新潟県立小出高等学校)

コロナ禍の僕らが過ごす青春はいつも、マスクで半分足りない

山上さくら

(神奈川県立鎌倉高等学校)

ほこりっぽい祖父の貯金箱に入れてみた彼の知らない令和の硬貨

大平珠里

(新潟県立小出高等学校)

前歩く母と並んだ妹の踵はみ出たビーチサンダル

歌川仁奈

(神奈川県立鎌倉高等学校)

じいじと会ってなかった三カ月白くなってたじいじの睫毛

山元環奈

(神奈川県立七里方浜高等学校)

ゆるせない頭痛、発熱倦怠感10日返せよ新型コロナ

伊藤倅友

(神奈川県立鎌倉高等学校)

青い空マットから見た落ちた棒「あー!もうちよつと!」と言う友の声

浅野すず

(長岡工業高等専門学校)

背の低さ自信のジャンプでカバーするネットの上から見える風景

吉田 迅

(新潟県立小出高等学校)

スイカ割り飛び交う声の中一つあの子の声が耳こだまする

星 大地

(新潟県立小出高等学校)

つやつやと光るむらさき早朝に母と二人でもぐ深雪ナス

秋元美愛

(新潟県立小出高等学校)

家に着き車の中から祖父と見る私を待ってる祖母の姿を

榎本樹里

(新潟県立小出高等学校)

凛々しい目キリツとまゆげ高い鼻完全無欠鏡の自分

田西隼人

(長岡工業高等専門学校)

友達とギター爪弾く放課後の夏風と音色交わる教室

布川康太

(長岡工業高等専門学校)

一日中大きな波に揺られると波のこちが体にのこる

石本美結

(神奈川県立鎌倉高等学校)

制服は長そでまくるのかわいいいね君が言うから暑さを我慢

佐藤わかな

(神奈川県立鎌倉高等学校)

八月の花火を二人で見ませんかこれも駄目だと打った文字消す

菅谷昊汰

(神奈川県立鎌倉高等学校)

クレープをまるめた端^{はし}にはみ出した^だ生^{なま}クリームは私^{わたし}の青春^{せいしゆん}

生野帆乃花

(東京学館新潟高等学校)

文化祭準備に残るふりをして君との話題探しています

小林菜々花

(東京学館新潟高等学校)

手を止めて五十センチ先の網戸眺める細いイモリの狩りの瞬間

石川桜子

(神奈川県立平塚江南高等学校)

平行線宙に届きし弓^{ゆはず}の音きしむ漆^{うるし}にいま風立ちぬ

長嶺凜佳

(神奈川県立七里方浜高等学校)

春の森だれかが私を見つけ出し：目覚めなければ良かったのにな

矢作藍海

(神奈川県立七里方浜高等学校)

送信を押すたび胸の奥にある乾いた砂が海にこぼれる

小田麻祐子

(茨城県立水戸第一高等学校)

佳作・・・三十五首

和陸和解停戦講和辞書引けば戦い止める日本語あふれ

横溝惺哉

(ラーエ記念国際高等学校仙台キャンパス)

やりすぎて母に取られた私のゲーム隠し場所はだいたい知ってる

玉田穂花

(新潟県立小出高等学校)

目覚めると肌で感じる雪の気配母の作ったポトフが香る

八木陸哉

(新潟県立小出高等学校)

百合薫る六月半ばの遊歩道雨音響く足音響く

小幡優心

(新潟県立小出高等学校)

ありがとうおいしかったと言われれば私の心の主婦が目覚める

横山 有

(新潟県立小出高等学校)

一人だけ異世界にいるかっこよさあいつの魅力誰も気づくな

風間 蘭

(新潟県立小出高等学校)

ばあちゃんは会う度に言う「めごいなあ」アイドル気分でポーズを決める

池田凜夏

(新潟県立小出高等学校)

彦星よ君を私は待てぬから今から行くよ雨が降れども

早川杏珠

(長岡工業高等専門学校)

あつめあつめポケットいっぱいどんぐりきみは知つてる？どんぐりの中

森田那生

(長岡工業高等専門学校)

授業中ななめ後ろにこっそりと渡す手紙は他言厳禁

矢野空瑠美

(長岡工業高等専門学校)

大学に合格したらまた来ると梅ヶ枝餅と交わした約束

伊東美晴

(神奈川県立鎌倉高等学校)

マドレーヌおいしいねって笑うきみがきれいねみたいに聞こえそ

安藤 彩

(神奈川県立鎌倉高等学校)

体験でイルカのせびれつかみ乗る速いカーブでふりまわされた

大友更紗

(神奈川県立鎌倉高等学校)

青い海横目に見ながらランニング夏の江ノ電私を抜かす

松本咲千

(神奈川県立鎌倉高等学校)

息を吸い鼻をつまんで飛び込めば気づけば目の前あぶくの世界

山本敢志

(神奈川県立鎌倉高等学校)

白と黒混ざった色は灰色か誰も知らない未来の景色

潮田旭翔

(神奈川県立鎌倉高等学校)

体育祭センター分けにはちまきが似合う男に憧れている

吉岡晃生

(神奈川県立鎌倉高等学校)

丁寧なノートの文字は春先の私の緊張表している

本多 楓

(東京学館新潟高等学校)

君宛ての送信ボタン押す前に3秒止まって指先を見る

有本萌衣

(東京学館新潟高等学校)

自販機の炭酸ボタン押した時缶落ちる音夏が逝く音

庭山祐汰

(東京学館新潟高等学校)

八月の旅行帰りに立ち寄ったサービスエリアにヒグラシの声

熊倉洗人

(東京学館新潟高等学校)

黒板を消す度チョークの粉が落ち音も無く降る雪に似ている

原 いづみ

(東京学館新潟高等学校)

母さんが九月初めてむく梨は「二十世紀」と呼ぶ梨と言う

小林伊吹

(東京学館新潟高等学校)

髪を切る美容室と僕の持つ鏡に違いがあるかもしれない

長谷川大悟

(東京学館新潟高等学校)

水遊び友達とした河川敷引越す車の助手席に見た

鈴木耕晟

(東京学館新潟高等学校)

夕闇に沈む教室一人きり飲み干した後の水筒のよう

井上紅音

(神奈川県立平塚江南高等学校)

草むらに寝そべり空を見あげたら地球の一部になった気がした

宮川 輝

(神奈川県立平塚江南高等学校)

大会後一人ぼっちの浴室でしずくの落ちる音だけ聞こえる

山下美音

(神奈川県立平塚江南高等学校)

大人にはなれる気がしないそれなのにおたまじゃくしは足を出してる

吉澤結穂

(神奈川県立平塚江南高等学校)

ジリジリと照らされている水面がダイヤのように光る夏の日

難波楓花

(神奈川県立七里方浜高等学校)

大好きだ。と言ったら君はどう返す海月の水槽映る私達

本田梨奈

(神奈川県立七里方浜高等学校)

夏休みノスタルジック琵琶湖線十八切符で向かう米原まいばら

水津敬太

(神奈川県立七里方浜高等学校)

帰り道夕陽に照らされソーダ飲むこれが青春というやつなのか

菅原有結

(神奈川県立七里方浜高等学校)

時間はね時計と心二つある遅く感じて長く感じる

直井大空

(神奈川県立七里方浜高等学校)

欲言えば水着姿の君の背を追ってみたいよマンガみたいに

斉藤 武

(神奈川県立七里方浜高等学校)